

2023年5月12日 第3429回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
 <斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
 <唱 和> 「四つのテスト」
 <ゲスト紹介> *ソプラノ歌手 松永知史様
 *米山奨学生 李世林様
 *Black Tokyo 創設者 Eric Robinson 様
 *株式会社M&A プランニング 代表取締役 権田理司様

- <誕生日祝> *中村 正 (S.29.5.1) *徳永良輔 (S.9.5.4)
 *山田哲也 (S.40.5.14) *福島康人 (S.18.5.15)
 *加賀本好美 (S.42.5.18) *根岸文彦 (S.22.5.21)
 *田邊一三 (S.26.5.23) *児玉信藏 (S.52.5.24) 各会員

- <入会月祝> ・長尾和典 ・藤村昌一 ・伊藤隆義 ・齋藤眞且
 ・小林一博 ・新倉良是 ・松本好史 ・二瓶淨幸
 ・浅葉孝己 ・田中由紀子 ・石田裕樹 各会員

- <会長報告> *ガバナー事務所より
 ・岡田英城会員に次年度地区戦略計画委員会委員の追加の委嘱が来ております
 ・第3回米山学友の世界大会「再会 in 関東」登録のご案内について
 8月5日(土)～6日(日) 場所：筑波国際会議場

- <奨学金授与式> *米山奨学生 李世林様

- <委員長報告> *職業奉仕委員会 八木委員長より 「職場見学会」のご案内
 6月16日(金) 新国立競技場ガイドツアー&柴又でのうなぎ会食
 会費17,000円(うなぎ会食10,000円含みます) 定員40名(募集中)
 *雑誌委員会 小保内副委員長よりロータリーの友5月号
 *ピンクリボン横須賀講演会 前田会長より 若干の空き席あり
 5月14日(日) 14:00～17:00 場所：ヨコスカ・ベイサイド・ポケット
 *出席委員会 鈴木(豊)委員長より4月出席報告 4月分平均出席率80.02%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
4月14日	113名	99名	75名(4名)	24名	8名	82.18%
21日	113名	103名	71名(1名)	32名	8名	76.70%
28日	113名	100名	64名(2名)	34名	18名	81.19%

- <出席報告> *出席委員会 鈴木(豊)委員長より5月12日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
113名	100名	70名(1名)	30名	8名	78.00%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 ソプラノ歌手 松永知史様ようこそお出でくださいました。部屋いっぱい歌声を楽しみにしております。
- ・比護、梁井、大石、八巻、高橋、長島、田中、杉浦、福西、鷺尾、畑、新倉、松本、小平、田村、齋藤、勝間、上林、江口、澤田、前川、二瓶、猿丸、田邊、杵淵、齋藤 各会員
ソプラノ歌手 松永知史様本日は横須賀RCにお越し戴きありがとうございます。卓話も大変楽しみにしています。宜しくお願いします。
- ・八巻、高橋、小山、勝見、齋藤、前川 各会員

米山奨学生 李世林様、Black Tokyo 創設者 Eric Robinson 様、(株)M&Aプランニング代表取締役 権田理司様 ようこそ横須賀RCへお越しくださいました。本日の例会ごゆっくりお過ごしください。

- ・徳永、福島、根岸、田邊、児玉 各会員 誕生日祝いとして
- ・長尾、藤村、齋藤眞、小林(-)、二瓶、田中、石田 各会員 入会月祝いとして
- ・岩崎 会員 入会月祝い(4月)として
- ・宮島 会員 権田さんようこそ。これからは裁判所でお会いするとき以外は、権田社長と呼ばせていただきます。
- ・木村、八木、高橋、岡田(剛)、大野(健)、新倉(健)、児玉、渡邊、江沢、鈴木(豊)、齋藤(眞)、岩崎、勝間、澤田、前川、齋藤(眞)、三堀、臼井 各会員
八木会員の芙蓉交通(株)で電気自動車EVタクシー導入記事が本日のタウンニュースで紹介されています。脱炭素を先導する素晴らしい取り組みですね!
- ・椿、高橋、大野(健)、加藤(健)、勝間、石田、小保内、松岡、萩原 各会員
明後日、5月14日(日)当クラブ主催のピンクリボンよこすか講演会の開催です。
ご参加の会員皆様で楽しんで成功させましょう!

<卓 話>

「音楽だからこそできること」 ～ みんなで楽しむコンサート横須賀 ～

横須賀出身ソプラノ歌手
松永知史様

横須賀ロータリークラブの皆様、こんにちは。このような場で音楽家である私がお話をさせていただくのは、非常に恐縮しておりますが、地元横須賀ということで緊張感を忘れお話しさせていただきたいと思いません。本日はよろしくお願いいたします。今日は演奏でなくお話しをということですが、実は5年前に図々しくこちらにお邪魔しまして、自分が地域の仲間たちと共に始めたコンサートのお知らせをさせていただきました。その時に1分という持ち時間だったのをすっかり聞き逃し5分くらい喋ってしまった記憶がありまして、それで話好きと思われ今日は呼んでいただいたのだと勝手に解釈しております。



本日のテーマは私が音楽家として行っております“人との出会いを大切にして自然に発生した活動3つ”のうち、特に横須賀で皆様に協力していただきながら続けているコンサートのお話をさせていただきます。私は横須賀の武山出身でございます。最寄り駅はたくさんございます。とは申しましてもご存知の通りいずれも最寄り駅と呼ぶには程遠いのですが、逗子にも三浦海岸にも野比にも行けるというところで生まれ育ちました。出来の悪い子どもだったのですが、童謡を町内会で歌うとなぜか地域のおじいちゃん・おばあちゃんが涙を流して喜んでくれることに快感を覚えました。小学校の卒業文集で「私は声楽家になる。」と書き、特に童謡や日本の歌を大切に歌い継ぐ声楽家になりたいと音楽大学に進みました。その後、東京芸大の音楽会で聴いた沖縄の生徒さんの素晴らしい声に感動し、沖縄にも勉強のために行きます。沖縄に行った際に、今度は本場ヨーロッパで私が勉強している文化を見たいと思いました。しかしお

金がなかったため、沖縄のロータリークラブの奨学生試験を受けたことを思い出しました。当時の沖縄はアメリカに視線が向いており、ヨーロッパではないという話をされ、ロータリーでは奨学金をいただけませんでした。しかしめげずに沖縄の海外人材派遣育成財団の試験を受け、沖縄出身の人間ではない内地の人間に本場を見せてやったら何かならだろうと多分思っていたのか、沖縄県の奨学金をいただきドイツに行くことができました。ドイツは2回行っております。1回目は学生時代で、テレビをつければ Nintendo、Nissan、Toyota、Sony など、日本企業の CM だらけにびっくりしました。オーディションでハンガリーやスイスなどヨーロッパ各国に行ったのですが、各街の渋谷のスクランブル交差点や銀座四丁目交差点に匹敵するような場所にある大看板には必ずと言っていいほど日本の企業の広告が並んでおり、すごいなと思った記憶があります。その後、母の具合が悪くなり慌てて帰国し、生まれ育った武山の養護学校で教員をしました。そしてまたドイツに仕事で戻るのでありますが、旅行ビザで行ったのでオーディションに受からなければそのまま帰国という状況で、それまで所属していた事務所も「4年も日本に帰っていて、いきなり戻ってきてまた使ってほしいというのは虫が良すぎる。掃いて捨てるほどソプラノはいる。うちの事務所ではもう取れないよ。」って。アジア人でもあるし差別ではなく、「オペラというのは見た目もあるからとても難しいよ。」ということを言われてしまいました。そういう中でドイツに戻りました。あれだけ日本の企業ばかりだった街並みがあつという間に変わっておりました。ミュンヘン大学はドイツの中でも一番大きな大学でして、一番人気だった日本語学科、日本文学、日本文化の専攻が今は全然定員に満たないということを知り、たった数年でこんなにも変わるのかという思いを味わいました。ヨーロッパで歌い、帰国して日本でも歌っております。

本日お話しさせていただくのは、この「みんなで楽しむコンサート」についてです。私が養護学校で教員生活をした時、大きなカルチャーショックを受けました。車いすを使用するなど身体障がいの方に対しては皆さんとても理解があります。しかし自閉症やダウン症の方のように見た目では全然わからない知的障がいの生徒さんがたくさんいらっしゃる中で、外に出たときに社会のマナーを守らせるため学校の先生は一生懸命学校生活の中でトレーニングを行わせます。彼らが頑張っているにもかかわらず、課外活動で外に行ったり、交通機関を利用したり、施設のプールに行ったりすると「こんなにこの子たちが頑張っている。」のに、お叱りを受けたり、忸怩たる思いをたくさんしました。私も彼らの仲間として出会わなければ、自分も社会のマナーやルールにおいてあちら側にいたのかなどか？などと、いろいろなことを考えさせられました。その中で一人の子との出会いがありました。私は音楽科の教員免許はありますが、特別支援学校教諭の免許がないにもかかわらず校長先生に呼ばれ、学校内でとても有名だった一人の子に対して音楽を通してマンツーマンで見るようにと言われました。そこで私は学校内で音楽を彼らに楽しく届けたり一緒に楽しんだり、癒したりとかいう活動ではなく、音楽家としてもう少しスキルアップをして、社会に彼らを引き出したい。学校内や保護者・親族・教員とのかかわりだけで生きるのではなく、彼らにとって横須賀は自分の街だし、公共のホールは彼らのホールでもあるので、外に引き出す何かができないかなという思いでもう一度ドイツに戻りました。クラシック音楽というのは、とてもレベルが高く難しいですが（それを逆手にとって）レベルの高いものだからこそマナーがとても厳しい。街中にあふれている楽しい音楽会はたくさんあり、車椅子の方も各ホールに認知されております。この知的障がいと言われる仲間たち（元教え子）がホールで音楽を聴ける場を作りたい…と所思いました。ドイツから帰国するたびに、自分でお金を払って横須賀三浦教育会館を借りました。知的障がいでもちょっと声が出ちゃったり、嬉しくなって体を前後に揺らすロッキングとか。嬉しくなったり、この曲知ってると思うと、こういう動きが出てしまうのですね。それが怖いから音楽もクラシックも大好きだけど、クラシックの音楽会だけは絶対に連れていけないという保護者の声があり、教育会館でクラシックのコンサートを始めました。もちろん赤字。でも定員200名のホールには200名がいつも集まってくれました、それは元教え子さんの知人、障がい者を知っているご家族ばかりでした。そういう中で障がいのある方が家族にいたり、身近にいらっしゃる方たちはもともと理解もあるし、社会の現実も知っているし、彼らに愛を傾けています。一方、あまり触れることのない方たちは知的障がいの方の反応があるとちょっと怖いとかびっくりしちゃうということがあります。何か生活の中で同じ時間を共有したり、触れたり、嬉しくなるとこういう反応をするんだな…と知る機会を作れたらいいと思っておりました。しかし、この教育会館での規模でやっていると障がい者のためのコンサートになってしまう。私の中では残念で、障がい者のためのコンサートがやりたいのではないと思ひ、一般の方々や通常級に通う子どもたちに「こういう子たちがいるんだ。」という…「こういう楽しみ方があるんだ。」ということを知っていただく機会として、1,200席ある横須賀市文化会館大ホールでのコンサートに拡大しました。協力応援をお願いしたいと

いう思いに対しロータリークラブの皆様は、心よく応援してくださいました。このように障がいのある子どもたちもこうやって舞台に立って歌を歌ったり、私が教えている逗子子ども合唱の子どもたちと放課後デイサービスに通う障がい者手帳を持っている子どもたちが一緒に歌う。そういう機会を作ることができております。2015年から始め規模を拡大したのが2018年、コロナで一度お休みはしてはりましたがお蔭様で2023年8月8日に「みんなで楽しむコンサート」を開催することができます。みんなの気持ちでその場のルールやマナーができあがる生のコンサートということで、当初はお叱りばかり受けました。「あれはマナー違反だろう。」とか「うるさい!」とか、連れてきた親御さんたちもしゅんとなってしまうようなこともあったのです。しかしお蔭様で昨年アンケートを取りますと、クラシックなんて初めわからないって先生は思っていたのですが、実は夏休みに、お昼を食べながらクラシックのコンサートのプログラムを見て、演奏される曲を流しておいたら、当日この曲知ってるって言って、集中して聴いていたとか。周りの大人が「クラシックなんか障がいのある子にはわからないでしょ。」「なんでクラシックなの。」「結局理解がなくて叱られちゃうじゃないの。」などと、いろいろな問題はあったのですが、これだけ積み重ねてきますと今日はこういう声が聞こえることがなんだか温かい気持ちになるなというふうに皆さん思ってくれたようです。アンケートの回答も変わってきております。また実行委員会も横須賀の行政を引退された方、現役の方、学校の先生、体育館の館長さん、三浦学苑高校の生徒さんたちがボランティアを募って来ていただくなど、地域の皆さんの奉仕で活動が成り立っております。このコンサートは、ただ子どもたちに歌を歌わせるということではなく、いろいろな体験を届けるという意味もあります。例えば一流のゲストを呼び、ただ楽しい音楽ではなく音で感じるとか想像するとか、そういった音で何かを届けられるような方々にご協力をいただくということをやっております。東京芸大教授の東さんや、久里浜出身のNHK交響楽団のクラリネット首席奏者の松本さん、こういった海外でも活躍する一流の方々にもご協力いただいております。こういう方々と触れ合えますから、中学生が譜めくりをすることで、夏休みの素敵な思い出にきっとなるであろうということで、体験を提供するというのも意識しています。「みんなで楽しむコンサート」は区別のない、垣根のない空間をホールに作る。障がい者の方たちに音楽を届けるとなると作業所や施設に訪問コンサートに行くことが多々あります。しかし彼らも外に出てホールという空間、古い文化会館であっても特別な空間に足を運び音楽を聴くということにすごくワクワクを感じるのです。クラシックだから我慢しないといけない、クラシックだけは聴けない…という方たちがこの世界にいましたが、「みんなで楽しむコンサート」だったらクラシックを聴けるのだよ、生の音楽を聴けるよということを伝えたい。演奏を聴いただけで「これはベルリンフィル、これはウィーンフィル。」と楽団を言い当てる生徒さんもいて、ちょっとびっくりした方もいらっしゃいました。そういう方にクラシックも聴ける、生の楽器の音も聴けるという選択肢が横須賀にはあるということがすごく大切だと思っています。皆様のご協力のもと毎年続けていきたいと考えております。また、このコンサートでよくお叱りを受けるのが、「障がい者のは何でもよいという訳ではないよ。」ということです。うるさくしてもいい、声を上げてもいい、バタバタやってもいい。それがマナー違反で、そういうことをしているのであれば、ついている教員やまた介護者のスタッフがそれを判断されますし、それぞれがそれを付き添っている家族も含め考える場にできたらいいなと思います。何が悪い、何が悪いではなく、今日は声上がっているけれども、これはどんなのかなっという子どもから大人まで考える一つの機会になってくれたらいいなということです。もっと楽しい雰囲気にしたらどうなのとか。生の音、シンプルな木の音だったり、それからクラシックの本来あるマナーを知っておいたほうがいい程度の方たちも大勢います。そういう方たちには「ちゃんと聴けたね。」というふうに、教員やデイサービスのスタッフさんたちに褒めていただきたいと思っております。マナーやルール、その正しさは優しいのかということもいつも考える。みんながハッピーを感じる活動であること。私たちも上から目線で「こういうことをやっています。」ではありません。このコンサートをやることは準備が大変時間がかかりますし、お叱りもたくさんあります。いろいろなご意見をいただくので、その時にはいろいろなことがあります。そんな中で「通常級に通う障がいのない兄弟と、障がいのある兄弟・家族みんなでクラシックを聴ける日が来るなんて、しかも地元横須賀で…」というアンケートを見るとやってよかった。人が喜んでくれてまた自分も喜んでくださることが嬉しくて、ハッピーハッピーな循環であるように。実行委員会としてそういうことを大切にしながら、「みんなで楽しむコンサート」を横須賀で続けていきたいと思っております。ということで3つの活動の中から地元横須賀なので「みんなで楽しむコンサート」を主にお話しさせていただきました。

あと2つライフワークにしている活動があります。神奈川県最西端に山北町という町があります。森林面積では神奈川県NO1です。ですが森林贈与税は人口に比例し、横浜市の方がもらえるようなので限界集落のお父さん・お母さんたちは怒っています。山登りに行った先に山北町の中でも限界集落と言われている場所のお父さん・お母さんたちに偶然出会いました。「以前はここでお茶を作っていたのだけど、作るのが大変だから放棄地になって森林が荒れている。「ここは神奈川の水源地だけど限界集落の俺ら数人じゃ守れないよ。」っていう話を散々聞いておりました。そのお父さんたちの話を聞いた次の日に、ミュンヘンの友達から「日本の良質のお茶が欲しい。」と連絡がありました。お茶の話聞いた次の日になんて偶然と思い、その限界集落のお父さんたちに相談したら、(いろいろな経緯があるのですが割愛しまして)ミュンヘンに無農薬のお茶を届けることになりました。この活動を通し、日本のお茶、神奈川県の水源地を守るということで、横須賀の浦賀小学校の皆さんも加わっていただき、森林教室ということで山北町と交流をしています。森林を守る人間がしっかりと現地に思いを馳せるということで活動をしております。それから子どもにお茶を知ってもらう、地域の産業を知ってもらうという活動をしております。また私がお世話になった沖縄では、閑古鳥が鳴いており修学旅行生も来ないという国立平和記念公園で音楽コンサートをすることになりました。内地の方も来てくださいます。沖縄もカルチャーショックの嵐でして、琉球史を沖縄の小学生が習うとか、私がナイチャー(沖縄県民以外の人)と呼ばれることはあまりいい意味ではなくて、沖縄の方のいろいろな思いがあるのだよとか…聞かされたり、現地に住んでいろいろ感じたことをもとに、ウチナンチュー(沖縄の人)の仲間と沖縄の歌を本土の私が歌って、そして日本の歌曲を沖縄の音楽家が演奏するという。その裏には、子どもたちに歴史を伝えるという大義名分のもと、わだかまりや嫌な思いがバトンされないようコンサート活動をしております。

横須賀の話と山北と沖縄と…全て音楽で行っている社会活動なのですが、そこには共通点があり、障がい者、それから沖縄は沖縄、山北は山北の限界集落、「どうせ外にはわかんねえべ。」というお父さんたちの思いや「どうせ内地にはわかんねえべ。」という沖縄の思いとか、「どうせ健常者にはわからないでしょう。」という障がい者の思いそれぞれが内にこもった世界でなく、ちゃんとフラットにみんなと繋がれる。ただ音楽を楽しむとか楽しいというイベントで終わるのではなく、音楽というのは実はその後ろにいろいろな隠れた思いがあるけれども、それが活動や祭りごとにならずに柔らかくいろいろな人たちの違いを結ぶことができることを一音楽家として信じております。この横須賀ロータリークラブの皆様にも応援いただけたら幸いです。本日はありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 長島 誠人